

【 就 職 編 】

1 就職活動日程の変更について

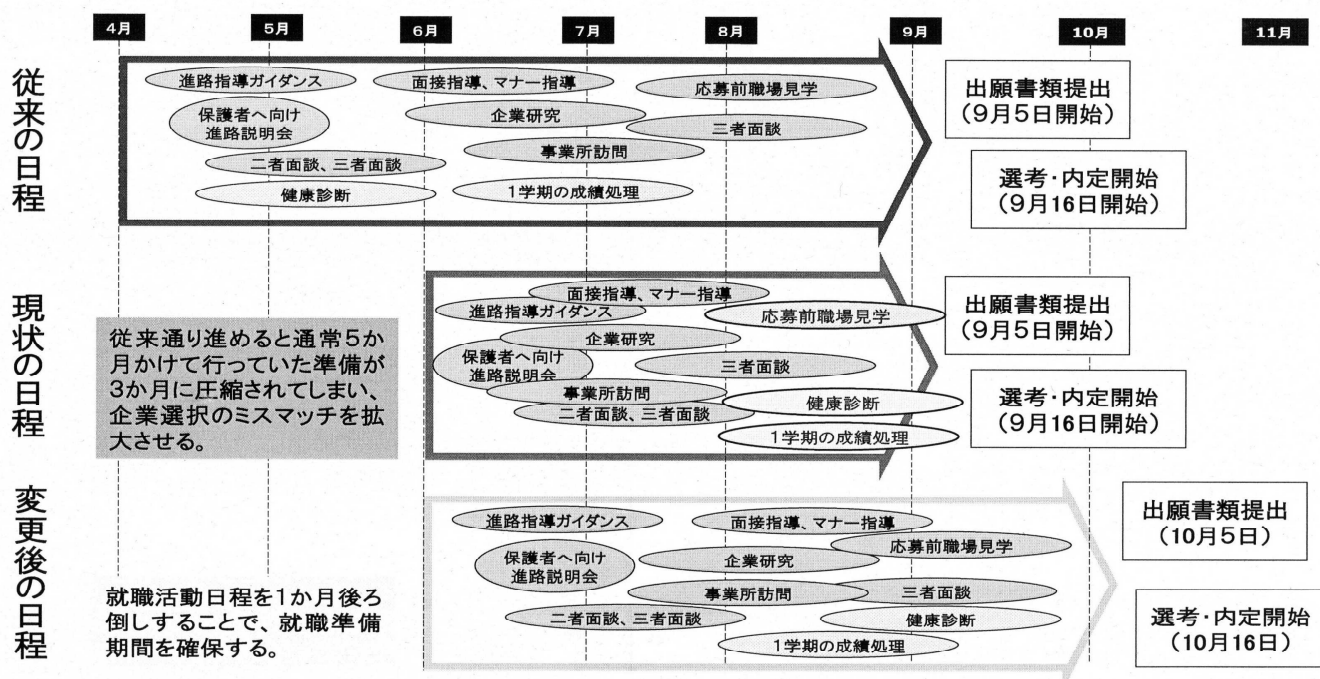
1 学期も残すところあと僅かとなりました。3 年生にとっては自分の進路を決めなければならない大切な時期です。

さて、就職については、6 月 1 日から職安（職業安定所）において企業の求人票受付が始まり、高校生の就職活動が実質的に始まりまりました。7 月 1 日には、学校における求人票受付も始まり、その後、三者面談を実施して具体的な受験先企業を決定していく流れとなります。

今年度の就職活動については、例年とは違い、日程の変更が発表されました。コロナウィルス感染拡大の影響で、学校の休業期間が長かったため出願書類（履歴書・調査書）の提出期限と採用試験の実施日が 1 ヶ月ずれ込み、10 月 5 日以降出願書類提出、10 月 16 日以降採用試験となりました。10 月中旬までに体育祭や榕樹祭と大きな行事が続きますが、面接練習等準備を怠らず就職戦線に臨んで欲しいと思います。

今年度、求人票がどの程度届くのか、今のところかなり不透明です（恐らくかなり減少することが予想されます）が、このような時こそ、その人の真価が問われます。7 月から本格的な校内面接指導も始まりました。たくさんの先生方に面接指導を受けて受験に備えましょう。就職決定までの流れですが、これはルール（就職協定）に乗っ取って行われますので、お知らせします。

令和2年度の高校生の就職活動日程の変更について



2 就職内定率と人材流出について

令和2年3月に卒業した県内高校卒業生の就職内定率が発表されました。就職内定率は 99.4 % と依然として高い水準を維持しています。本校の場合就職者数は少ないですが、全員が希望の就職先に就職できています。しかし、コロナウィルス感染拡大の影響で世界経済、日本経済が冷え込むなか、今後の雇用情勢は極めて不透明であり、景気がいつ回復するか分かりません。1・2 年生にとっても対岸の火事ではないのです。

さて、鹿児島県は人材流出県といわれており、多くの若者が県外に就職して行きます。鹿児島県の人口は、昭和 60 年（1985 年）に約 182 万人でしたが平成 27 年（2015 年）の国勢調査によると約 165 万人、30 年間で約 17 万人も減少しています。今のまま人口が減り続ければ、2040 年には 131 万人になると予想されています。県外で働くのか、県内で働くのか、それは生徒の皆さんや保護者の方々の人生に関わる大きな問題でもあります。給与を含めて福利厚生面は、県外企業が良いかもしれません。また、都会での生活は、あらゆる面で刺激的かもしれませんが、物価や生活環境の違いなど様々な要因を比較して長い目で、就職先を決定してほしいと思います。進路決定は、皆さんにとってこれからどう生きていくかを決めることになるのです。

